



建材用に加工したスギの状態を確かめる中浜社長

## 梱包木材製造のオービス 米向け建材事業に力

梱包用の木材製造で国内最大手のオービス(福山市)が、建材の加工事業に乗り出した。新型コロナウイルスの流行に伴い、大型の工作機械を船で輸出する際

### コロナ危機 苦境を越える

どに使う木材の受注が低迷。需要が安定している米国向けの住宅のフェンス材を中心に取引を増やし、生産量を確保する狙いがある。

スギの丸太の中心部から梱包用の角材を切り出した後に残る外周部分を利用する。製材後の木材の厚さは1・5〜4寸程度。梱包材としての使い道が限られる一方で、フェンス材などには適しているという。

同社は昨年春、梱包材の受注が例年の半分に減るなど、新型コロナウイルスの影響を受けた。工場の稼働を保つため、9月にフェンス材の販売を開始。国内の民家用に内壁や床材の製造も始め、

現在では木材加工のうち1割を建材が占める。

木材部門の2020年10月期の売上高は約53億円と、前年より3億円ほど減った。22年10月期に65億円としてきた目標の達成は難しくなったが、建材の需要を追い風に1年先のクリアを見据える。中浜勇治社長は「販路拡大への挑戦を続けていく」と意気込む。

(村上和生)